

第 33 回 高峰カンファレンスを開催しました

公益財団法人 第一三共生命科学研究振興財団

2017 年 3 月 13 日(月)、第 33 回 高峰カンファレンスを開催しました。
多くの大学、研究機関の研究者など、100 名の出席者を集め、会場は満席となりました。

当財団では毎年、生命科学研究の発展に寄与した研究者に対して、高峰記念第一三共賞を贈呈しています。

高峰カンファレンスは受賞者の業績を記念して開催され、学术交流の場を提供することで研究のさらなる振興と、若手研究者の育成を図ることを目的としています。

今回は「オートファジー：基礎生物学から疾患の理解へ」という総合テーマのもと、記念講演とシンポジウムが行われました。



開催の辞を述べる中山理事長

記念講演では、京都大学 名誉教授 中西 重忠先生の座長の元、今年で 14 回目となった高峰記念第一三共賞を受賞された、東京大学大学院医学系研究科分子生物学分野 教授 水島 昇先生が登壇され、「オートファジーの分子機構と生理的意義：酵母からヒトへ」というテーマで記念講演をいただきました。



記念講演座長を務められた京都大学名誉教授 中西 重忠先生



第14回高峰記念第一三共賞を受賞された
東京大学大学院医学系研究科 分子生物学分野教授 水島 昇先生

引き続き行われたシンポジウムでは、新潟大学大学院医歯学総合研究科 遺伝子制御講座 分子生物学教授 小松 雅明先生、公益財団法人東京都医学総合研究所 コピキチンプロジェクトプロジェクトリーダー 松田 憲之先生、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病 研究第四部室長 株田 智弘先生にご講演をいただきました。



「オートファジーの異常と肝腫瘍: オートファジー欠損マウスからわかったこと」について講演された小松先生



「ミトコンドリアのオートファジーとパーキンソン病-解ってきたこと・解らないこと-」について講演された松田先生



「核酸を分解する非小胞輸送型オートファジー –その発見と解明への挑戦–」について講演された株田先生



会場の様子

以上

※ 高峰カンファレンスのプログラムは[こちらから](#)ご覧頂けます。